

私たちはどのような時に深く学んでいるのか？ —これまでの経験から深い学びについて考える—

香川 順子

徳島大学・大学開放実践センター

平成24年8月23日(木) 11:00～13:00

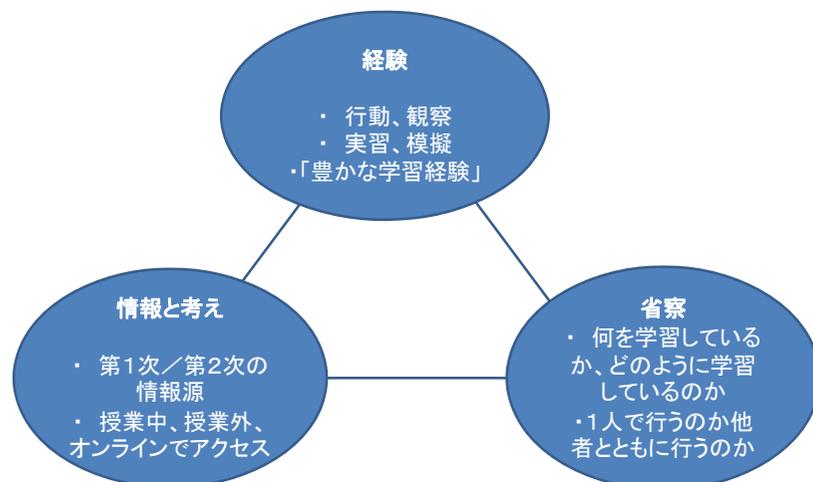
共通教育4号館 2階 4-404

目 標

1. 「深い学び」の経験を振り返り、現在の自分につなげて考えることができる。
2. 「深い学び」とは何か、自分なりの説明ができる。
3. 「深い学び」のための学習活動を最低3つは説明できる。



能動的学習を促進するために



【参考】L.ディー・フィンク著 土持ゲーリー法一訳2011「学習経験をつくる大学授業法」玉川大学出版部（第4章 124）³

学習環境のデザイン

【アクティブ・ラーニングの導入】
学生参加型授業、協調・共同学習、
課題解決・探求学習、
PBL (Problem/Project Based Learning)
などの導入

主体性・能動的な学びを引き出す教授法の活用

【経験の場を提供】
社会奉仕体験活動、サービス・ラーニング、
フィールドワーク、インターシップ、
海外体験学習

体験的な学びを実現する場を提供⁴

学習環境のデザイン

【情報通信技術／ICTの導入】

VOD (Video on Demand) システム、eラーニング、遠隔教育、LMS (Learning Management System)、ブレンディッド・ラーニング、クリッカーなどの導入

より効果的な学習環境を提供するために

5

評価をどうするか？

【学習ポートフォリオの導入】

全ての学習成果に関する記録を横断的にまとめてとっておくためのもの。学習の履歴をふりかえり、学習者は学習経験について内省していく。

学習成果を重視した評価手法

6

学生の「浅い・深い」学習の傾向

学生の学習姿勢・状況	
浅い	<ul style="list-style-type: none">• 単位取得や試験にパスすることのみ見ている。• 不十分な準備時間しかとらない。• 事実の記憶で十分と誤解している。• 教育に対してシニカルな見方をする。• (学習への)強い不安がある。• 深いレベルで理解する能力が欠如している。
深い	<ul style="list-style-type: none">• 意味を持って、適切に取り組もうとする。• 適切な予備知識がある。• 高い概念レベルに焦点をあて、第一の原理から学び、順に構造化された知識基礎を求める。• 関連性のない詳細な事柄よりも理論的に学ぶことを好み、それを学ぶ能力がある。

【参考】加藤かおりほか 2011 学生の理解を深める教授学習 (deep approach) 大学教育学会誌 第33巻 第2号88-91 (Biggs and Tang 2007:23-25より作成したもの) 7

学習の認知(理解)レベル

- 振り返って熟考する (reflect)
- 離れた課題に適用する (apply: far problems)
- 仮説を立てる (hypothesize)
- 原理に結び付ける (relate to principle)
- 身近な課題に適用する (apply: near problem)
- 客観的理由をあげて説明する、解説する (explain)
- 自分なりの理由をあげて主張する、論じる (argue)
- 関連付ける (relate)
- 中心となる考えを理解する (comprehend: main ideas)
- 状況や特徴を述べる、記述する (describe)
- 言い換えていう (paraphrase)
- 文章を理解する (comprehend: sentence)
- 確認する、名前をあげる (identify, name)
- 記憶する (memorize)

【参考】加藤かおりほか 2011 学生の理解を深める教授学習 (deep approach) 大学教育学会誌 第33巻 第2号88-91 (Biggs and Tang 2007:27より作成したもの) 8